

研究深化へ女性連携

盛岡で北東北3県交流

大学、企業の100人参加

「視野広がる」効果実感

岩手大など北東北3県の女性研究者らが研究成果を持ち寄る、研究・交流フェア2018(北東北ダイバースイティ研究環境実現推進会議主催)は19日、盛岡市盛岡駅西通のアイーナで開かれた。大学や企業、研究機関の約100人が参加し、最新の研究成果に関するポスター発表を展開。講演などを通して、さらなる研究の深化へ理解を深めた。

同会議は岩手大を代表機関に弘前大、一関高専、八戸高専、東北農業研究センター(盛岡市)、滝沢市に工場を置く製造業・ミクニの6機関で構成する。

講演したお茶の水女子大の鷹野景子教授は「キャリアアップに求められるリーダー力」について「心遣い、知性、しなやかさに加え、立場と視点を明確にした判

断、時間軸を見通す力、組織構成員の特性を把握する力が必要だ」と述べた。

ポスターセッションでは、同会議の構成機関による共同研究の内容などをまとめたパネルの前で、研究者が互いに発表。北東北の文学ツールの可能性、カシスに含まれる新規機能性成分の探索など、興味深いテーマが並んだ。

リボ核酸(RNA)に関する岩手大との共同研究など、3件を発表した弘前大農学生命科学部の柏木明子准教授(分子生物学)は「単独よりも研究規模と視野が広がり、互いの研究力が増している」と連携効果を実感する。

取り組みは、文部科学省の科学技術人材育成補助事業の一環で2016年に始まり、3年目。岩手大男女共同参画推進室の堀久美准教授は「今後は女性のビジネスリーダー塾の開催など

ポスターセッションで互いの研究を紹介する女性研究者ら



も検討したい」と意欲を見せる。